2025 年度　動物実験に関する自己点検・評価報告書

2026 年 9 月

同志社女子大学動物実験委員会

Ⅰ．規程及び体制等の整備状況

1．機関内規程

1）評価結果

□ 基本指針に適合する機関内規程が定められている。

■ 機関内規程は定められているが、一部に改善すべき点がある。

□ 機関内規程が定められていない。

2）自己点検の対象とした資料

同志社女子大学動物実験等実施規程

同志社女子大学動物実験委員会規程

3）評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。）

現行の動愛法・基本指針・飼養保管基準に則った規程を 2017 年 9 月に策定し、2017 年 10 月より施行した。

4）改善の方針、達成予定時期

動愛法・基本指針・飼養保管基準ほか、動物実験関連情報の収集に努めている。動愛法の改正に合わせて、機関内規程を改訂する予定である。また、麻酔方法、安楽死方法および人道的エンドポイントについては、国内外ガイドラインの変更点についても同様に対応する予定である。

2．動物実験委員会

1）評価結果

■ 基本指針に適合する動物実験委員会が置かれている。

□ 動物実験委員会は置かれているが、一部に改善すべき点がある。

□ 動物実験委員会は置かれていない。

2）自己点検の対象とした資料

同志社女子大学動物実験等実施規程

同志社女子大学動物実験委員会規程

3）評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。）

基本指針に基づき、本学動物実験等実施規程第 6 条に動物実験委員会の設置、本学動物実験委員会規程第 2 条に審議事項を規定している。

2017 年度の委員会規程の改訂により新たに、動物実験委員会委員に、動物実験に直接関与しない者で学識経験を有する教員（第 3 号委員）をもって構成することとなり、より厳正な審査・運営体制が整っている。

4)改善の方針、達成予定時期

国内外のガイドライン等に合わせ、委員会委員の構成については改善を計画している。特に第 2 号委員の選出に関して、年度により不足が生じないように改善した。

3. 動物実験の実施体制

1)評価結果

□ 基本指針に適合し、動物実験の実施体制が定められている。

■ 動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。

□ 動物実験の実施体制が定められていない。

2)自己点検の対象とした資料

同志社女子大学動物実験等実施規程

同志社女子大学動物実験委員会規程

動物実験審査申請書(同志社女子大学動物実験様式第 1 号)

動物実験計画書(同志社女子大学動物実験様式第 2 号)

誓約書(同志社女子大学動物実験様式第 3 号)

動物実験審査結果通知書(同志社女子大学動物実験様式第 4 号、第 5 号)

動物実験審査変更申請書(同志社女子大学動物実験様式第 6 号)

動物実験審査変更結果通知書(同志社女子大学動物実験様式第 7 号)

動物実験終了(中止)報告書(同志社女子大学動物実験様式第 8 号)

飼養保管施設設置承認申請書(同志社女子大学動物実験様式第 9 号)

動物実験室設置承認申請書(同志社女子大学動物実験様式第 10 号)

飼養保管施設・動物実験室廃止届(同志社女子大学動物実験様式第 11 号)

3)評価結果の判断理由(改善すべき点があれば、明記する。)

基本指針に則った同志社女子大学動物実験等実施規程および、同志社女子大学動物実験委員会規程が整備されており、付随する申請各種様式等も整備されている。

2017 年に整備した本学規程等に新たに規定された、飼養保管施設・動物実験室の設置承認規程に基づいて 2018 年度に改めて各実験室の審査を行った。しかしながら、2019 年度以降は十分に審査を行ってこなかった。なお、2018 年度の時点で、すべての動物実験施設と各研究室について動物実験委員会により承認されている。

4)改善の方針、達成予定時期

2025年度以降は毎年末に各研究室における動物実験室の点検を実施できるよう、規程との整合性をとりながら改善する。審査の際、3Rs や安楽死などを具体的に審査できるよう、2025 年度中に動物実験審査申請書を一部改訂したが、未だ不十分な点があるため再度改訂する。

4. 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制

1)評価結果

□ 基本指針に適合し、安全管理に注意を要する動物実験の実施体制が定められている。

■ 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。

□ 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制が定められていない。

□ 該当する動物実験は、行われていない。

2)自己点検の対象とした資料

動物実験計画書等関連書類一式(既述)

同志社女子大学遺伝子組換え実験安全管理規程及び同安全管理規程規則

同志社女子大学化学物質管理規程及び同実施要領

薬学部教育研究における防災安全の手引き

3)評価結果の判断理由(改善すべき点があれば、明記する。)

遺伝子組換え動物実験については、動物実験等実施規程とは別に、同志社女子大学遺伝子組換え実験安全管理規程が定められている。動物実験委員会および遺伝子組換え実験安全管理委員会の承認が必要な適正な実施体制となっている。

感染動物実験については、実施してはいない。

その他、人の健康に害をおよぼすおそれのある動物実験については、薬学部教育研究における防災安全の手引きを動物実験に関わる全教員に配布して注意喚起に努めている。

4)改善の方針、達成予定時期

学内で実施しない(又はできない)実験については、規程の条文や計画書の選択肢から削除するなど、2026 年度中に対応する。

5. 実験動物の飼養保管の体制

1)評価結果

□ 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。

■ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。

□ 多くの改善すべき問題がある。

2)自己点検の対象とした資料

動物の愛護及び管理に関する法律

同志社女子大学動物実験等実施規程

動物実験委員会記録

動物実験施設における災害対策マニュアル　同志社女子大学動物実験委員会

災害発生時の対応 2025【教職員用】

3）評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。）

本学の動物実験施設は、飼養保管規準に即して適切に管理しており、施設の維持管理状況も良好である。

2018 年度に大型オートクレーブ（大型ケージの滅菌が可能な大きさ）を設置したことにより、大型ケージの滅菌が可能な環境が整い、滅菌の作業効率が上昇している。毎年実施している屋上の排気点検、フィルター、エアシャワーの点検を実施した。

4）改善の方針、達成予定時期

地震対策としてケージ転落防止装置の設置については、大部分のラックについては設置・運用しているが、全てのラックについて完了していないため、2026年度中に対応を予定している。京田辺キャンパスの飼育室内のラックについては2027年2月に実施を予定している空調設備更新に際して、今出川キャンパスの飼育室についても適宜確認し、対応が必要な各飼育室を管理する研究者に対して、個別に転落防止措置を行うよう促していく。

6．その他（動物実験の実施体制において、特記すべき取り組み及びその点検・評価結果）

Ⅱ．実施状況

1．動物実験委員会

1）評価結果

■ 基本指針に適合し、適正に機能している。

□ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。

□ 多くの改善すべき問題がある。

2）自己点検の対象とした資料

同志社女子大学動物実験等実施規程

同志社女子大学動物実験委員会規程

動物実験計画の審査資料

動物実験計画継続の届け出および結果報告

2024 年度教育訓練資料

3）評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。）

同志社女子大学動物実験等実施規程に基づき以下の事項について審議又は調査し、学長に報告又は助

言している。

1. 動物実験計画が法令等及び本規程に適合していること。
2. 動物実験責任者及び動物実験実施者の承認に関すること。
3. 動物実験計画の実施状況及び結果に関すること。
4. 施設等及び実験動物の飼養保管状況に関すること。
5. 動物実験及び実験動物の適正な取扱い並びに法令等に関する教育訓練の内容又は体制に関すること。
6. 自己点検・評価及び情報公開に関すること。
7. その他、動物実験の適正な実施のための必要事項に関すること。

2017 年に整備した本学規程等に新たに規定された、飼養保管施設・動物実験室の設置承認規程に基づいて 2018 年度に改めて各実験室の審査を行った。しかしながら、2019 年度以降は十分に審査を行ってこなかった。なお、2018 年度の時点で、すべての動物実験施設と各研究室について動物実験委員会により承認されている。

4)改善の方針、達成予定時期

2024 年度以降は毎年末に各研究室における動物実験室の点検を実施できるよう、規程との整合性をとりながら改善する。

国内外のガイドライン等に合わせ、委員会委員の構成については改善を計画している。特に第 2 号委員の選出に関して、年度により不足が生じないように改善した。

2. 動物実験の実施状況

1)評価結果

■ 基本指針に適合し、適正に動物実験が実施されている。
□ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
□ 多くの改善すべき問題がある。

2)自己点検の対象とした資料

動物実験計画書(全ての計画書及び終了報告書)
動物実験委員会議事録および審査結果の通知

3)評価結果の判断理由(改善すべき点や問題があれば、明記する。)

2025 年度は、28 件の動物実験計画が新規立案され(継続申請 9 件)、動物実験委員会で本学規程等への適合性について審査された。実験計画の不備を指摘され再審査された計画あるいは実施中止勧告を動物実験委員会から指摘されたものはなかった。その中には一般研究だけでなく、学生の実習も含まれる。すなわち、実験動物を使用する学生実習もすべて事前に実験計画を立案し、委員会で審査され、学長の承認を

得てから実施している。2020 年度より申請及び審査は電子承認システムを利用しており、審査時間を大幅に短縮できている。

飼養保管施設および実験室の管理状況については、特段の不都合はみいだされていない。適切に管理されていたことが報告されている。

動物実験終了報告書(同志社女子大学動物実験様式第 8 号)の、得られた成果の一覧および「動物実験の自己点検表(様式 2-1)」により、各動物実験が適正に行われたことを実験者・委員会がともに確認した。

4)改善の方針、達成予定時期

3. 安全管理に注意を要する動物実験の実施状況

1)評価結果

□ 基本指針に適合し、当該実験が適正に実施されている。

■ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。

□ 多くの改善すべき問題がある。

□ 該当する動物実験は、行われていない。

2)自己点検の対象とした資料

遺伝子組換え実験安全講習会資料

防災安全の手引き

動物実験に関する検証結果報告書(日本実験動物協会)2024 年 3 月

3)評価結果の判断理由(改善すべき点や問題があれば、明記する。)

遺伝子組換え動物実験については、遺伝子組換え実験安全管理規程に基づき実施されている。事故等が発生した場合の対処法を講習会等で周知している。

感染動物実験等については、現在実施していない。

その他、人の健康に害をおよぼすおそれのある動物実験については、(主として化学的危険性、物理的危険性)を実験動物の飼養に従事する教員・職員・学生に、動物実験責任者が周知している。

4)改善の方針、達成予定時期

「同志社女子大学化学物質管理規程」(2023 年1月 28 日制定、2023 年4月1日施行)、「同志社女子大学化学物質管理規程実施要項」(2023 年1月 28 日制定、2023 年4月1日施行)に加え、安全管理に注意を要する動物実験に関する規程の策定を 2026 年度中に計画している。

4. 実験動物の飼養保管状況

1）評価結果

■ 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。

□ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。

□ 多くの改善すべき問題がある。

2）自己点検の対象とした資料

薬学部動物実験施設利用マニュアル

生活科学部動物実験施設利用マニュアル

実験動物搬入搬出記録

微生物モニタリング検査成績

業務委託契約書（株式会社セイキに動物実験施設の業務委託を行っている）

3）評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。）

動物実験施設では、利用マニュアルを飼育室等に置き、それに基づき飼育管理作業を行っている。同マニュアルを教育プログラムの際に配布し周知している。

動物実験施設では、実験動物の主要な感染症について、年1回の微生物モニタリングを実施している。

また、Hantavirus、LCMV、サルモネラ菌を対象に人獣共通感染症についても、年1回の微生物検査を実施し、感染事故のないことを確認している。

実験動物管理者は、上記の業務の実施にあたって、常時、動物実験施設職員等の指導にあたっている。

4）改善の方針、達成予定時期

飼養保管施設使用のマニュアル等の見直し等は随時進めていく。変更点については教育プログラムの際に周知を図る。

微生物モニタリングについても、これまでと同様に行う。

5. 施設等の維持管理の状況

1）評価結果

■ 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に維持管理されている。

□ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。

□ 多くの改善すべき問題がある。

2）自己点検の対象とした資料

空調切り替え作業等の通知書

オートクレーブ装置の点検報告書

3)評価結果の判断理由(改善すべき点や問題があれば、明記する。)

飼養保管施設は関係者以外の立ち入りを制限している。空調等に係る設備は、整備点検を定期的に実施している。動物飼育室を司る空調機器が経年劣化から故障し始めており(大きな故障ではなく動物飼育室の室温には影響は出ていない)、2020年度に空調機の部分交換を実施し、飼育環境に影響が出ないように整備した。

オートクレーブ装置については、年1回定期点検を行い、劣化が指摘された部品については、交換等の対応を行っている。今出川キャンパスの施設に設置されているオートクレーブ装置については、老朽化が著しいため経年劣化の対応と併せて、更新の計画を継続的に検討し、2025年度中に新製品へ更新することとした。

2019 年度動物屍体保管庫の冷凍庫が故障したため、新しい冷凍庫と交換した。その他大きな設備上の不具合は報告されていない。

人道的な処置の実施および作業者の安全確保のため、2024 年度より京田辺キャンパスの施設に新たに動物安楽死装置を導入した。使用にあたっては、マニュアルに基づく運用および定期的な点検を実施し、適切な管理体制のもとで運用している。

4)改善の方針、達成予定時期

空調・オートクレーブ装置等、点検が必要な設備については、年次点検等を行う。2025 年度に、小型オートクレーブの交換、大型のオートクレーブの配管の修繕を一部実施した。

6. 教育訓練の実施状況

1)評価結果

■ 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。

□ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。

□ 多くの改善すべき問題がある。

2)自己点検の対象とした資料

2024 年度教育訓練資料、教育訓練受講者一覧、各種学生実習テキスト

3)評価結果の判断理由(改善すべき点や問題があれば、明記する。)

2025年度、薬学部は10月1日(水)、生活科学部は5月21日(水)に対面方式で動物実験者教育プログラムを実施した。

各研究室においても独自に教育訓練を実施している。

実験動物管理者は、公私動協の講習会等に参加し、関連情報等の収集にあたっている。

2017 年度に改定された規程等の変更ポイントや、人獣共通感染症に関する項目等を動物実験者教育プログラムに盛り込み、周知した。

4）改善の方針、達成予定時期

教育プログラムについては例年同様開催する。公私動協の講習会等で得られた関連情報については、教育訓練講習会や、適宜メール等で実験者に周知する。特に、麻酔方法、安楽死方法については、近年、推奨されない方法もあるので、丁寧に説明する。

7. 自己点検・評価、情報公開

1）評価結果

■ 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。

□ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。

□ 多くの改善すべき問題がある。

2）自己点検の対象とした資料

同志社女子大学 WEB サイト（研究倫理のページ）

2023 年度　動物実験に関する自己点検・評価報告書

3）評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。）

本学WEBサイトの研究倫理のページにおいて、次のとおり動物実験に関する情報を公開している。

・本学動物実験関連規程

・動物実験委員会構成委員

・動物実験の飼育状況、施設状況、動物実験計画書申請件数

・動物記念式・教育訓練

・動物実験に関する自己点検・評価報告書

4）改善の方針、達成予定時期

8. その他

（動物実験の実施状況において、機関特有の点検・評価事項及びその結果）